

# 東部日本語ボランティアネットワーク 第33回定例会議事録

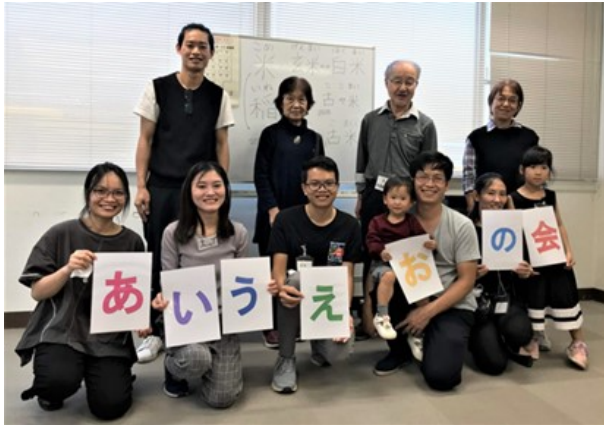
2023年12月2日(土) 三島本町タワー14:00~16:00

出席者(6名):香川、石井、虎谷、九木野、佐野由美子、相田

○情報共有

香川(函南 あいうえおの会)

作成;ホアン ティ ホップ/香川 勉



現在、会に登録している外国人は18名です。勉強している外国人は毎回6から10名です。ベトナム、インドネシア、スリランカそしてタイから来た人たち、今年からウクライナ避難民の親子が通ってきています。ボランティアの学習支援者は11名が登録しています。

当初3名のお母さんへの学習支援としてベトナム人のホップさんが始めた会ですが、一年半たった今は多様な外国人が学んでいます。

## ・会の現状

学習者は、技能労働者、技能実習生、配偶者(ほとんどがアルバイトに従事)、親子など多様です。学習者は勉強する目的がそれぞれ異なり、また日本語を使えるレベルには差異があります。そこで「1対1」の対面学習を基本スタイルを当初から維持しています。

日曜日に開いている日本語教室は少なく、仕事をしている人や子供を育てているお母さんも小さな子供と一緒に勉強できることを考慮した「無料」の教室で、教室は午後1時から5時まで開いていますので、学習者の都合の良い時間に勉強できます。お母さんの学習時間を確保するためにボランティアが保育を担当することもあります。同国人の学習者の「居場所」にもなっているようです。

## ・会の運営

教室の会場を無料で三島市より提供され、教材や運営資金は伊豆の国市から提供を受け、多くの学習支援者のボランティアは函南町から来ています。

毎月二回日曜日の午後で開催していますが、月に2回しか勉強できないので、スマホを使って自主学習ができるように日本語学習のHPを紹介しています。(実態として利用は少なさそう)

開催時間は4時間と長いので、途中で「おしゃべりタイム」と名付けて、やさしい日本語で日本の年間行事や習慣を紹介し、時には「なぞなぞ」や「マジック」などでリラックスして日本語でおしゃべりする休憩時間を設けています。地元に着した活動にしたい、中郷プラザまつりに展示参加、地元の農家の田植えや稲刈りを手伝っています。

## ・会の課題

1. 学習支援者は、教師の資格や日本語教育の資格を持たないボランティアです。学習支援の限界があり、学習者の学習目的にたいして「できる事とできない事」があります。学習者の中には単に会話をしたいのではなく日本語能力検定試験を目指す者もいることを考えると多様な目的に沿った学習の場が求められていると思われます。

⇒地区の日本語教室の役割を明確にし、学習者の学習目的に合った多様な教室の「品揃え」と学習者への紹介が必要ではないでしょうか。

2. 会の存続のリスクのひとつに、高齢者中心のボランティアによる運営となっていることが挙げられます。自己都合で活動を休止するボランティアが多数となったら会は成り立ちません。 ⇒会の運営やボランティア確保に関する行政の関与が必要ではないでしょうか。
3. ボランティアは学習支援スキルを向上したいので、それぞれが模索と努力をしています。

⇒行政として実用的なボランティア養成講座の開催、ボランティアの相互学習会などの開催等による支援体制が必要ではないでしょうか。

### 久木野（伊豆の国市国際交流協会 日本語話そう会）

#### ・現状

インドネシア、ベトナム、フィリピン、アメリカなどからの外国人で、技術者、ALT の人たちが常時 5, 6 人参加しています。中国人の方たちは、急に参加されなくなっています。

また、11 月から、モンゴルからの小学生、中学生の兄弟が参加し始めました。

例年寒くなると外国人の参加が少なくなります。

いま、コロナが収まりましたが、日本語を教える日本人が少なくなり、対応に苦慮しているところです。

### 佐野由美子（裾野市海外友好協会）

母体である「裾野市海外友好協会（SOFA）」は昨年、創立 40 周年を迎えた。

日本語教室の開設は 1997 年なので、はや 26 年になる。

開設当初からのスタッフも数人おり、現在 4 つのクラスを 15 名のボランティアが各、月 1 回のペースで出ている。

教室は毎週日曜日、午前 10 時～11 時半

コロナ禍の頃はなぜかずっと受講希望者が多く、待機リストを作ることもあったが、今年度になって受講者は減少！ 講師は毎回 4 人出ているが、マンツーマンになることもある。

ここ数年はスリランカ人が過半数で、技能実習生は激減状態である。

講師数は不足していない。地域には「外国人と関わりたい。」と思っている人は少なからずいる。（若い人も） アンテナを張っておくことは大事。

毎年 2 月に SOFA の「英語・日本語スピーチコンテスト」がある。

日本語はスピーチのみだが、出場者の確保に毎回苦労している。

12 月 17 日（日）に 4 年ぶりの飲食を伴う「年末の交流会」を行う、

普段は会う事の少ないスタッフ同士の交流も兼ねている。

教室の今の課題は「学習者を増やしたい！」

## 高澤（ふじたぶネット(ふじのくに多文化共生ネット)) 事前メール

1.

7月2日～8月20日までの毎週日曜日と、10月22日に、  
静岡県多文化共生課による「令和5年度日本語指導者養成講座」に参加しました。

(会場が富士宮市役所だったので通うのが大変でした)

この講座の趣旨は、静岡県が開発した対話交流型日本語教材『はじめまして！日本語』を使用して、  
静岡県内の市町に対話交流型の「生活者としての外国人のための初期日本語教室」を広めていくため、  
その教室で活動する日本語指導者の養成を行うことだそうです。

対話交流型の日本語教室とその教材についての理解、使い方、ファシリテーションのほか、  
静岡県のめざす地域日本語教育施策についての理解、日本語能力判定のテスト養成講座もありました。

10月22日の午前中には富士宮市が開講したばかりの初期日本語教室を見学しました。

立場に関係なく、会場の全員がファーストネームで呼び合っていて和気あいあいの雰囲気でした。

感想：みなさんとても楽しそう。でも準備がとても大変そう！

ふじたぶネットでは、総括コーディネーターの鈴木ゆみさんのアドバイスを受けながら、  
モデルクラスを開催する予定で少しずつ準備を進めています。

2.

10月20日(金)に、「文化庁地域日本語教育コーディネーター研修修了生(2010～2022年度)のためのフォローアップ研修」に参加し、

文化庁国語課の日本語教育施策について、市民活動と行政の協働などについてラウンドテーブル形式で話し合い、  
情報交換してきました。

3.

11月6日(月)、沼津市教育委員会による、「令和5年度日本語指導が必要な児童生徒に関する研修会」に参加  
しました。

ふじたぶネットでは児童生徒の日本語指導には関わっておりませんが、沼津市の日本語支援の状況についての  
情報に関心がありましたので参加しました。

(詳しくは虎谷さんからお話があるのではないかと思います。)

4.

11月25日(土)26日(日)日本語教育学会秋季大会に参加しました。

4年ぶりの対面開催で、前泊・後泊で山形市に行ってきました。

一般公開プログラムでは昨今話題に挙げられることが多い技能実習制度がメインで、

「外国人技能実習制度に求められる日本語教育～誰のため？何のため？～」と題して、

今後とりまとめが予定されている特定技能の新制度を念頭に置きながら、技能実習生に対する日本語教育は今  
後誰が担うべきなのか？どうあるべきなのか？についてディスカッションが行われました。

進行はHICEの内山さん、パネリストのうち2名は東北地方で活動している文化庁コーディネーター研修同窓  
生と顔なじみの方が3名もいて、大変刺激を受けました。

## 石井（のびっこクラブみしま）

のびっこクラブの現状：

・来室は毎週 10 人前後。オンラインも継続中。母たちが漢字の勉強を始めた。

福祉分野との連携が増えている。

支援者が足りない日が多い。大学生会員数は 20 人ほどいるが、参加が少ない。

・子どもたちの様子

アジア圏…夏休みに帰省した家族が多かった。授業開始後も戻らなくて心配した。

○9 月 9 日（土） 外国ルーツの親子のための進学説明会開催

説明はのびっこ会員の現役教員。 ベトナム、フィリピン、ブラジル親子が参加。

静岡県国際交流協会作成の『オレンジガイド(日本語、ポルトガル語、フィリピン語)』

の内容を基づいて説明した。

○12 月 17 日（日） 外国ルーツの親子のための就学説明会予定（主催は三島市）

静岡県教委の『ようこそ！日本の学校へ（日本語、フィリピン語、スペイン語、ポルトガル語）』の内容に基づ

いて説明予定。

子どもたち用にミニプレスクールを開催し、のびっこクラブが担当する。

## 虎谷（NICE、親子にほんごひろば、県教育委員会）

・沼津にほんご教室：市内だけではなく、周辺市町からの学習者が増え、全体に数が増えている、ボランティア希望の見学者の参加があり、今後ボランティアの増員を期待。

・ミングリング：11 月 4 日（土）市民体育館武道場で外部から講師を迎えて「空手体験」実施、外国人の事前申し込みは多数あったが、当日の参加者が少なかった。当日欠席者にはにほんご教室に参加の折、欠席理由を聞いて、今後の活動の参考にする。

・親子にほんごひろば：2 会場とも参加者が増えており、複数人対ボランティアで実施しているが、ボランティア 4 人体制では対応が難しくなっている。

・県教育委員会：県東部の学校ではインフルエンザが流行り、学年、学級閉鎖が増えている。各市町の来日する子どもたちの数が増えてきて、多言語化している。

・沼津市研修：日本語指導が必要な児童生徒等研修会を 11 月初旬に実施、市内小中教員、幼児教育教員、日本語学校、夜間中学教員、市内の学校や日本語教室のボランティア合わせて 50 名ほど参加、加配教員の取り出し指導を参観、それぞれが参考になったこと、これからの指導に生かしたいことを共有、同じ立場の方のグループで横のつながりを作り、課題を共有、異なる立場の方のグループではたての連携、よこの連携ができているか、これからどのようにつながっていけば良いかなど情報と課題を共有、おおむね良かったとの感想

## 相田（沼津国際交流協会 沼津にほんご教室）

### ・現状

学習者の数は増えて20人を超えることもあります。新人講師があまり入って来ていません。

### ・イベント

11月 ミングリングパーティー『空手体験』開催

場所：沼津市総合体育館 参加者：全員で30名ほど

金岡空手倶楽部の杉山隆則先生と道場生5名に、進行、休憩をお任せしました。

杉山先生が空手の挨拶、礼から基本的な技、受け身、板割、ミット等を教えて下さいました。

参加した外国人の人数が、事前の予定より少なかったのが少し残念ですが、スペースの広さ的には、ちょうど良かったです。

スタッフと参加者の直接のコミュニケーションの時間も少しだけ持てましたし、楽しんでくださったようで良かったです。

## ○技能実習生改め「育成就労制度」について（20分程度）

特定のテーマについて考えてみる試みとして、育成就労制度について議論した。

### ・本テーマに関する一応の目的の確認

目的は概ね以下の通り。

①関心を持つきっかけにする

②我々にできること、そのために学ぶべきことを模索する（小さいことでいいのでできれば具体的な事）

③理解を深める

### 話題①

皆さんはそもそも明確な理由に裏付けされた、深い関心はありますか？

→身近な経験を通して関心を持った事例の紹介などがあった

### 話題②

移民の受入れに関する是非の問題がよく聞かれるが、受け入れずに国が衰退していくのを受け入れるか、リスクなどを少いながら受け入れていくかの、基本的には二択しか無いと思うが他になにかありますか？

→具体的な現状認識からそこは明らかかとの意見など